

実務分野記事の新設にあたって[†]市川 照久[†] 菅野 政孝^{††} 川上 英^{†††}

昨年6月より実務分野記事を担当するワーキンググループを新設し準備を進めてきたが、今月号から新設する運びになった。

まず実務分野記事の新設に至った経緯を紹介する。情報処理学会の会員は3万人を超えるまでは順調に増加してきたが、ここ数年は頭打ちである。そのため、学会の活性化が各種検討された。その一つが会員の大きな部分を占める実務家向けの情報提供である。

新雑誌検討委員会(齊藤忠夫委員長)において、実務家向け新雑誌の検討が行われた。会員の内、企業のSEを中心にアンケート調査を実施した結果、現学会誌は難しいという意見が74%を占めた。実務家を対象とした新雑誌を発行する場合の希望としては、現学会誌の代わりに無料配布であること、10～20ページ程度の薄いものであること、文字を少なくビジュアルであること、新技術紹介・事例紹介・システム構築手法等のテーマを取りあげること、などの希望が多かった。

これらの意見を参考に、平成6年3月に検討結果が理事会に報告された。その答申内容は次のとおりである。

(1) 現学会誌の中から20ページ程度を実務分野の頁とするように改め、テスト的に平成7年から2年間を目処に実務情報の提供を行うこと。

(2) 実務情報欄は、実務分野ワーキンググループを設けて担当すること。

(3) 実務情報欄は、できるだけビジュアルで簡潔な編集に努力すること。

(4) 実務分野ワーキンググループの主査は、SE経験者で元理事クラスの会員に当面お願いすること。

(5) 2年間のテスト期間中に、実務情報欄の評

価を行い、その結果に基づき選択制の独立誌とするかどうかを決定すること。

この答申を受け、平成6年6月より学会誌編集委員会の一つのWGとして実務分野ワーキンググループ(PWG)が新設された。主査および委員は、現理事の推薦で選定され、民間各社の現役SEおよびSE経験者を中心に編成された。

PWGでは、アンケート結果を参考に各委員と意見交換しながら次の編集方針を固めた。

(1) 新技術紹介は、「情報処理最前線」の頁で取りあげている。PWGは、5カ月に1回の割合でこの頁の編集を担当し、実務家が興味を持つと思われるテーマを取りあげる。なお、今月号の記事は、PWGが編集したものである。

(2) 企業の幹部が情報戦略をどのように考えているかを編集委員がインタビューし、その内容を1頁で簡潔に紹介する。なお、今月号はIBMのユーザ会の幹事長にお願いした。

(3) 事例紹介は、PWGの定番として毎月掲載する。そのため、各企業のユーザ会の協力を得て優秀論文を推薦いただき、極力幅広い分野の先端事例を4～5頁で紹介する。なお、今月号の事例紹介は、IBMユーザ会より推薦いただいたものである。

(4) システム構築に関連した手法の紹介は、一般の解説論文の一つとして適宜取り上げることにする。

最後に、現役のSE時代の自分自身を振り返ると、学会誌も商業誌も内容の善し悪しに関係なく読まなかったような気がする。しかし、編集委員になって改めて学会誌を読んでもみると、実務家の皆様にとって有用な内容が意外と多い。

実務分野記事新設を契機に、実務家の皆さまも学会誌に親しんでいただきたいと念願するものである。

(平成7年4月10日)

[†]三菱電機(株)

^{††}NTTデータ通信(株)

^{†††}沖電気工業(株)

*学会誌実務分野ワーキンググループ主査および幹事